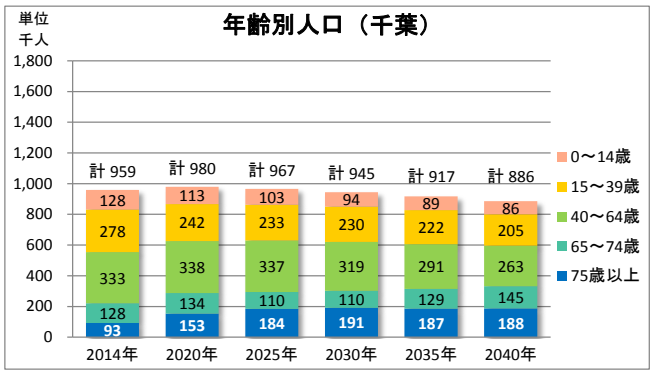
３　二次保健医療圏別資料

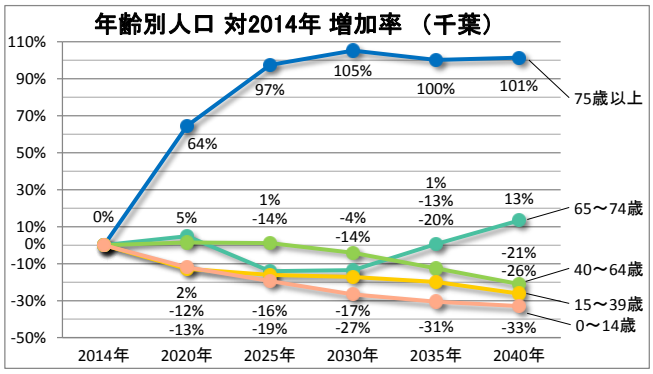
以下の資料は、「千葉県保健医療計画及び地域医療構想策定に係る調査分析事業 報告書」（平成 27 年3月・千葉県）からの抜粋であり、患者数の推計対象に一般・療養病床以外の病床利用者を含む等、独自の方法により推計したものです。

千葉保健医療圏

2020 年をピークに、総人口は減少することが見込まれる。若年人口が減少する一方で、75 歳以上の人口は 2025 年には倍増。

この人口構成の影響を受けて、入院患者数は 2035 年、外来患者は 2030 年をピークにそれぞれ、57%増、13%増。高齢患者の増加から 2035 年時点で、入院では「呼吸器系の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」、「循環器系の疾患」、外来は「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加することが見込まれる。





1. 人口の推移

◆総人口は、2020 年をピークにその後減少。

◆若年層（0～14 歳、15～39 歳）は一貫して減少。2040 年には 2014 年時点と比較して 0～14 歳は 33%減、15～39 歳は 26%減。

◆40～64 歳は 2025 年まで大きな増減はなく、その後減少し 2040 年には 21%減。

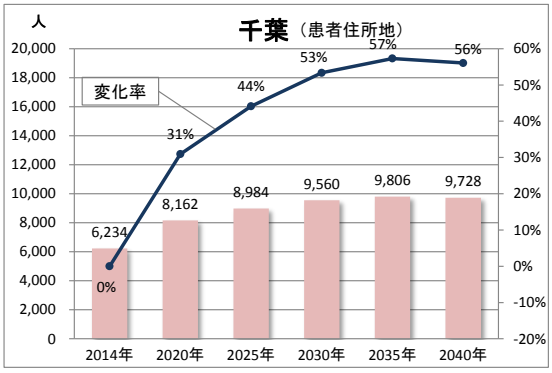
◆65～74 歳は、2030 年から増加が見られ、2040 年には 13%増。

◆75 歳以上は 2025 年には倍増し、その後は横ばいとなる。

2. 入院患者数

◆1日あたり入院患者数は、2035 年をピークとして 9,806 人と推計。2014 年の同患者数の 57%増。

◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率（患者住所地 千葉）

呼吸器系の疾患	126%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	45%
損傷，中毒及びその他の外因の影響	105%	眼及び付属器の疾患	38%
内分泌，栄養及び代謝疾患	89%	新生物	34%
循環器系の疾患	85%	感染症及び寄生虫症	27%
腎尿路生殖器系の疾患	68%	精神及び行動の障害	18%
消化器系の疾患	53%	耳及び乳様突起の疾患	−
皮膚及び皮下組織の疾患	49%	妊娠，分娩及び産じょく	−22%
筋骨格系及び結合組織の疾患	47%	先天奇形，変形及び染色体異常	−27%
神経系の疾患	46%	周産期に発生した病態	−28%

千葉保健医療圏の医療機関の入院患者住所地

患者住所	構成比
千葉	62.9%
東葛南部	7.4%
東葛北部	1.0%
印旛	6.7%
香取海匝	1.2%
山武長生夷隅	6.9%
安房	0.3%
君津	1.7%
市原	4.8%
県外	7.1%
合計	100.0%
医療圏外計	37.1%

千葉保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地

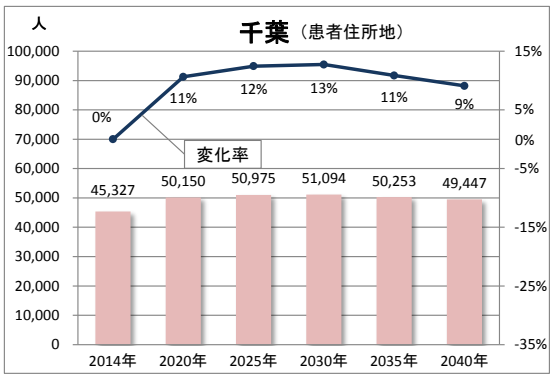
医療機関所在地	構成比
千葉	74.7%
東葛南部	9.8%
東葛北部	0.8%
印旛	4.8%
香取海匝	0.3%
山武長生夷隅	1.6%
安房	0.3%
君津	0.7%
市原	2.1%
県外	4.9%
合計	100.0%
医療圏外計	25.3%

◆出産年齢人口が減少することから、「周産期に発生した病態」、「先天奇形、変形、染色体異常」、「妊娠、分娩及び産じょく」の患者数は減少。

◆千葉保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 37.1%。

◆千葉保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 25.3%。

3. 外来患者数（往診・訪問診療含む）



◆1日あたり外来患者数（往診・訪問診療含む）は、2030 年をピークとして 51,094 人と推計。2014 年の同患者数の 13%増。

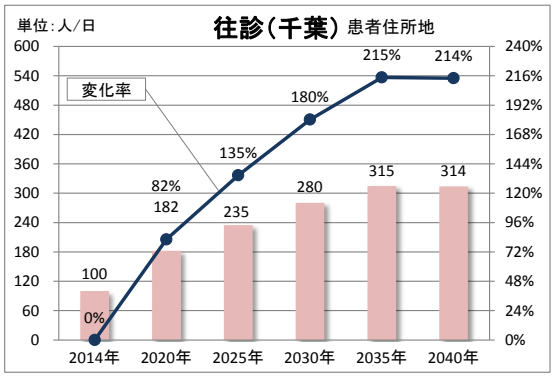
◆一般的に、高齢外来患者に多い、「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加。

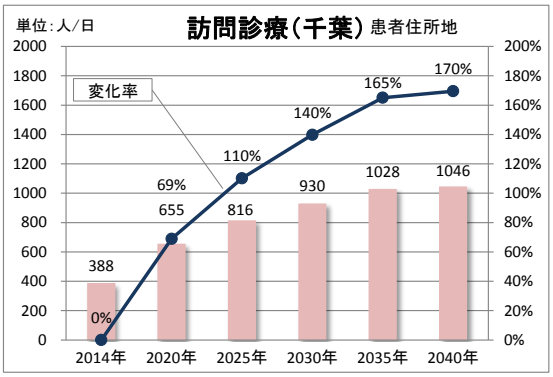
2035年疾患別 対2014年外来患者増加率（患者住所地 千葉）

循環器系の疾患	31%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	8%
筋骨格系及び結合組織の疾患	24%	皮膚及び皮下組織の疾患	4%
内分泌，栄養及び代謝疾患	17%	耳及び乳様突起の疾患	2%
新生物	16%	先天奇形，変形及び染色体異常	2%
眼及び付属器の疾患	15%	感染症及び寄生虫症	−2%
消化器系の疾患	13%	精神及び行動の障害	−6%
神経系の疾患	12%	呼吸器系の疾患	−9%
損傷，中毒及びその他の外因の影響	10%	妊娠，分娩及び産じょく	−25%
腎尿路生殖器系の疾患	9%	周産期に発生した病態	−

◆出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩及び産じょく」の患者数の減少幅が大きい。

◆高齢者人口の増加により、2035 年における往診を必要とする患者数は対 2014 年比約 215%増、訪問診療を必要とする患者数は、約 165%増になることが見込まれる。





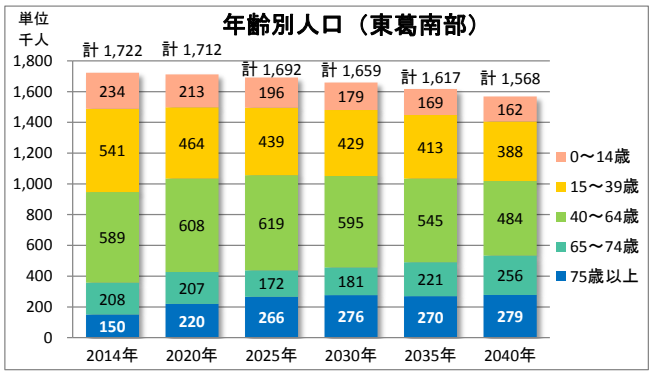
※ 各表中のパーセンテージの欄が「−」となっているところは、患者数が 10 人未満。

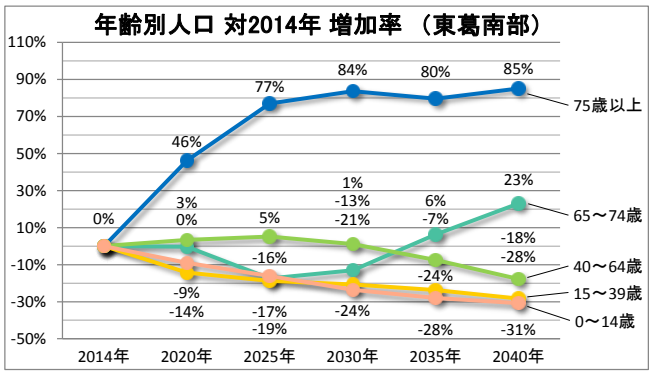
東葛南部保健医療圏

2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。64 歳以下が減少する一方で、75 歳以上の人口は増加。この人口構成の影響を受けて、入院患者数は一貫して増加し 2040 年に 54%増、外来患者は 2030 年のピークで 12%増。高齢患者の増加から 2035 年時点で、入院では「呼吸器系の疾患」「循環器系の疾患」、外来は「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加することが見込まれる。

市川市
船橋市
習志野市
八千代市
鎌ケ谷市
浦安市

1. 人口の推移





◆総人口は、一貫して減少。

◆若年層（0～14 歳、15～39 歳）は、2040 年に 2014 年時点の約 3 割減。

◆40～64 歳は 2030 年から減少に転じ、2040 年に約 2 割減。

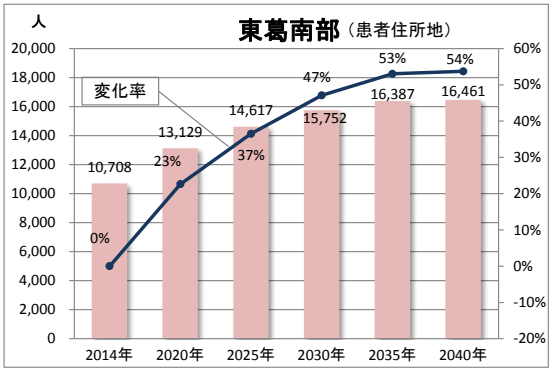
◆65～74 歳は、2025 年の 17%減から増加しはじめ、2040 年時点で対 2014 年比 23%増。

◆75 歳以上は 2025 年からは、対 2014 年約 8 割増前後で横ばいとなる。

2. 入院患者数

◆1日あたり入院患者数は、一貫して増加し、2040 年に 16,461 人と推計。2014 年の同患者数の 54%増。ただし、上昇率は次第に緩やかになる。

◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率（患者住所地 東葛南部）

呼吸器系の疾患	104%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	47%
損傷，中毒及びその他の外因の影響	80%	皮膚及び皮下組織の疾患	38%
循環器系の疾患	78%	新生物	33%
消化器系の疾患	60%	眼及び付属器の疾患	27%
内分泌，栄養及び代謝疾患	58%	精神及び行動の障害	23%
腎尿路生殖器系の疾患	53%	耳及び乳様突起の疾患	12%
神経系の疾患	52%	先天奇形，変形及び染色体異常	−20%
筋骨格系及び結合組織の疾患	50%	妊娠，分娩及び産じょく	−28%
感染症及び寄生虫症	49%	周産期に発生した病態	−28%

東葛南部保健医療圏の医療機関の入院患者住所地	
患者住所	構成比
千葉	5.2%
東葛南部	68.2%
東葛北部	6.2%
印旛	6.4%
香取海匝	0.3%
山武長生夷隅	0.4%
安房	−
君津	0.2%
市原	0.2%
県外	12.8%
合計	100.0%
医療圏外計	31.8%

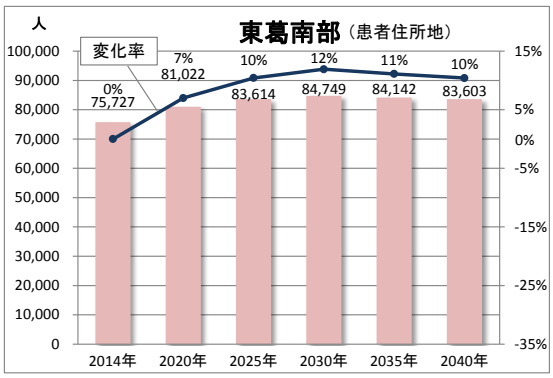
東葛南部保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地	
医療機関所在地	構成比
千葉	5.1%
東葛南部	75.2%
東葛北部	4.8%
印旛	4.0%
香取海匝	0.3%
山武長生夷隅	0.3%
安房	0.2%
君津	0.3%
市原	0.1%
県外	9.7%
合計	100.0%
医療圏外計	24.8%

◆出産年齢人口が減少することから、「周産期に発生した病態」、「妊娠、分娩及び産じょく」、「先天奇形、変形、染色体異常」の患者数は減少。

◆東葛南部保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 31.8%。

◆東葛南部保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 24.8%。

3. 外来患者数（往診・訪問診療含む）



◆1日あたり外来患者数（往診・訪問診療含む）は、2030 年をピークとして 84,749 人と推計。2014 年の同患者数の 12%増。

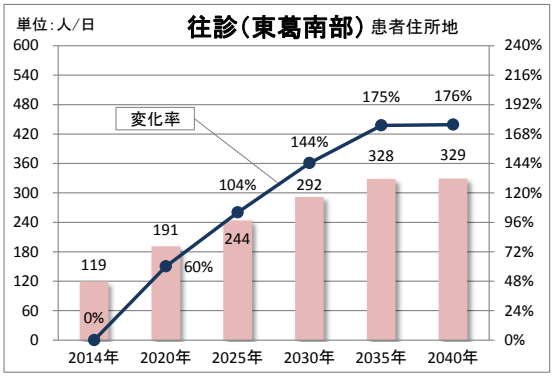
◆一般的に、高齢外来患者に多い、「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加。

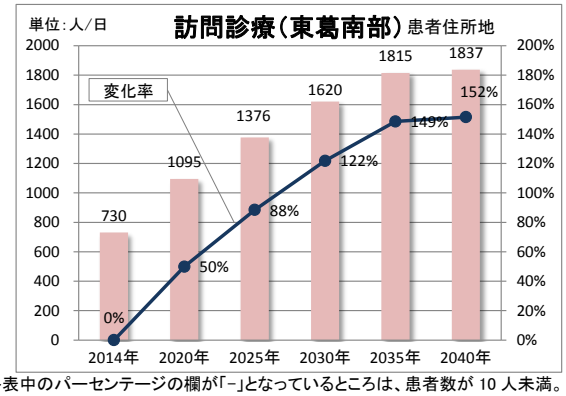
2035年疾患別 対2014年外来患者増加率（患者住所地 東葛南部）

循環器系の疾患	31%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	7%
筋骨格系及び結合組織の疾患	22%	耳及び乳様突起の疾患	4%
内分泌，栄養及び代謝疾患	19%	先天奇形，変形及び染色体異常	3%
新生物	16%	皮膚及び皮下組織の疾患	2%
消化器系の疾患	15%	感染症及び寄生虫症	2%
眼及び付属器の疾患	14%	精神及び行動の障害	−8%
神経系の疾患	12%	呼吸器系の疾患	−8%
腎尿路生殖器系の疾患	11%	妊娠，分娩及び産じょく	−18%
損傷，中毒及びその他の外因の影響	8%	周産期に発生した病態	−

◆出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩及び産じょく」の患者数の減少幅が大きい。

◆高齢者人口の増加により、2040 年における往診を必要とする患者数は、対 2014 年比約 176%増、訪問診療を必要とする患者数は約 152%増になることが見込まれる。



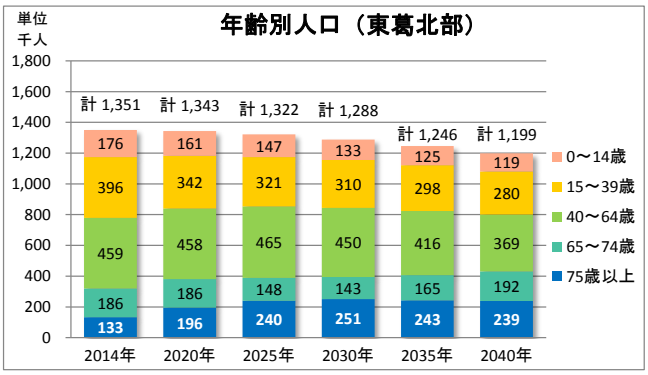


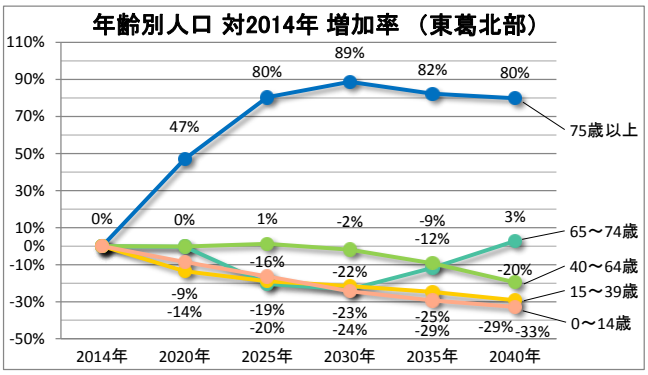
※ 各表中のパーセンテージの欄が「−」となっているところは、患者数が 10 人未満。

東葛北部保健医療圏

2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。64 歳以下が減少する一方で、75 歳以上の人口は増加。この人口構成の影響を受けて、入院患者数は 2035 年、外来患者は 2025 年をピークにそれぞれ、47%増、7%増。高齢患者の増加から 2035 年時点で、入院では「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」、外来は「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が大きく増加することが見込まれる。

1. 人口の推移





◆総人口は、一貫して減少。

◆若年層（0～14 歳、15～39 歳）は、2040 年に 2014 年時点の約 3 割減。

◆40～64 歳は 2030 年から減少に転じ、2040 年に約 2 割減。

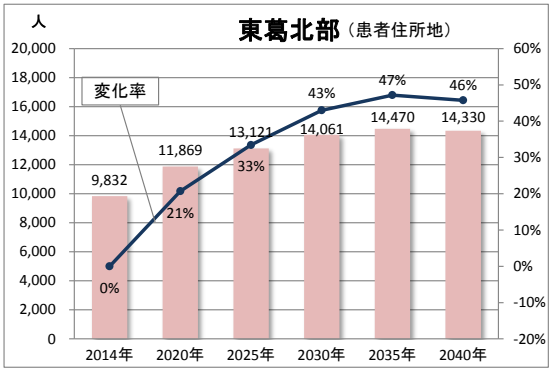
◆65～74 歳は、2030 年の 23%減から増加しはじめ、2040 年時点で対 2014 年比 3%増。

◆75 歳以上は 2030 年に対 2014 年 89%増でピークを迎え、その後は約 8 割増前後で推移する。

2. 入院患者数

◆1日あたり入院患者数は、2035 年をピークとして 14,470 人と推計。2014 年の同患者数の 47%増。

◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率（患者住所地 東葛北部）

呼吸器系の疾患	101%	筋骨格系及び結合組織の疾患	38%
損傷，中毒及びその他の外因の影響	76%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	33%
循環器系の疾患	67%	神経系の疾患	29%
腎尿路生殖器系の疾患	63%	新生物	27%
内分泌，栄養及び代謝疾患	58%	精神及び行動の障害	18%
皮膚及び皮下組織の疾患	55%	眼及び付属器の疾患	12%
感染症及び寄生虫症	47%	先天奇形，変形及び染色体異常	−28%
消化器系の疾患	46%	妊娠，分娩及び産じょく	−29%
耳及び乳様突起の疾患	45%	周産期に発生した病態	−32%

東葛北部保健医療圏の医療機関の入院患者住所地

患者住所	構成比
千葉	0.5%
東葛南部	5.3%
東葛北部	74.9%
印旛	1.8%
香取海匝	0.2%
山武長生夷隅	0.1%
安房	−
君津	−
市原	−
県外	17.2%
合計	100.0%
医療圏外計	25.1%

東葛北部保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地

医療機関所在地	構成比
千葉	0.7%
東葛南部	7.5%
東葛北部	74.6%
印旛	1.5%
香取海匝	0.1%
山武長生夷隅	0.1%
安房	0.1%
君津	0.2%
市原	−
県外	15.1%
合計	100.0%
医療圏外計	25.4%

◆出産年齢人口が減少することから、「周産期に発生した病態」、「妊娠、分娩及び産じょく」、「先天奇形、変形、染色体異常」の患者数は減少。

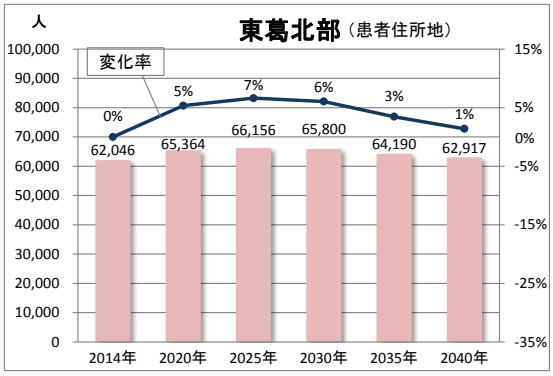
◆東葛北部保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 25.1%。

◆東葛北部保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 25.4%。

3. 外来患者数（往診・訪問診療含む）

◆1日あたり外来患者数（往診・訪問診療含む）は、2025 年をピークとして 66,156 人と推計。2014 年の同患者数の 7%増。

◆一般的に、高齢外来患者に多い、「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が大きく増加。

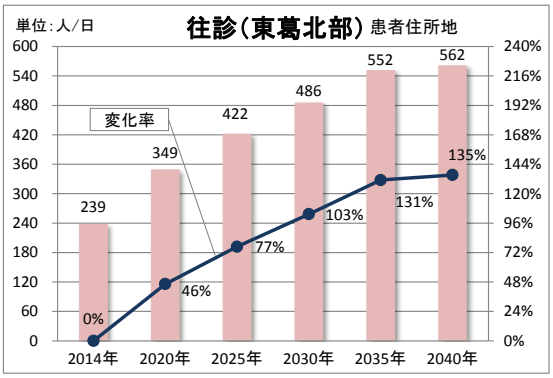


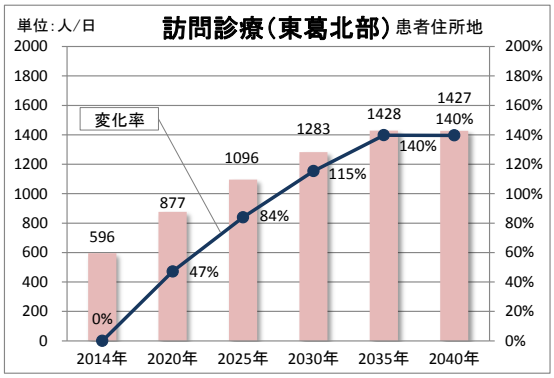
◆出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩及び産じょく」、「周産期に発生した病態」の患者数の減少幅が大きい。

◆高齢者人口の増加により、2040 年における往診を必要とする患者数は対 2014 年比 135%増、訪問診療を必要とする患者数は 140%増になることが見込まれる。

2035年疾患別 対2014年外来患者増加率（患者住所地 東葛北部）

循環器系の疾患	22%	腎尿路生殖器系の疾患	3%
筋骨格系及び結合組織の疾患	13%	皮膚及び皮下組織の疾患	−2%
眼及び付属器の疾患	8%	耳及び乳様突起の疾患	−3%
新生物	7%	感染症及び寄生虫症	−3%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	7%	先天奇形，変形及び染色体異常	−7%
内分泌，栄養及び代謝疾患	6%	精神及び行動の障害	−12%
消化器系の疾患	6%	呼吸器系の疾患	−13%
損傷，中毒及びその他の外因の影響	4%	周産期に発生した病態	−21%
神経系の疾患	3%	妊娠，分娩及び産じょく	−32%

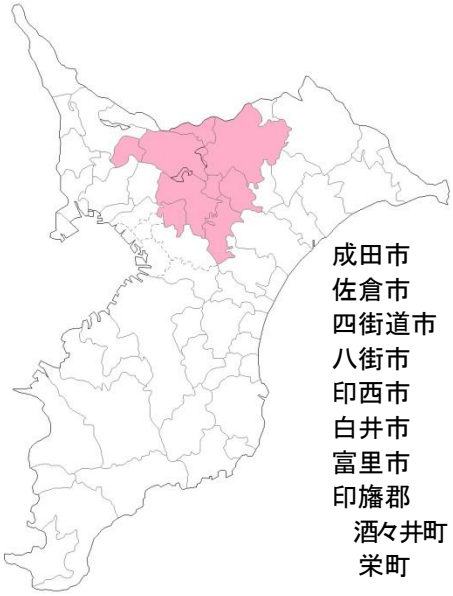




※ 各表中のパーセンテージの欄が「−」となっているところは、患者数が 10 人未満。

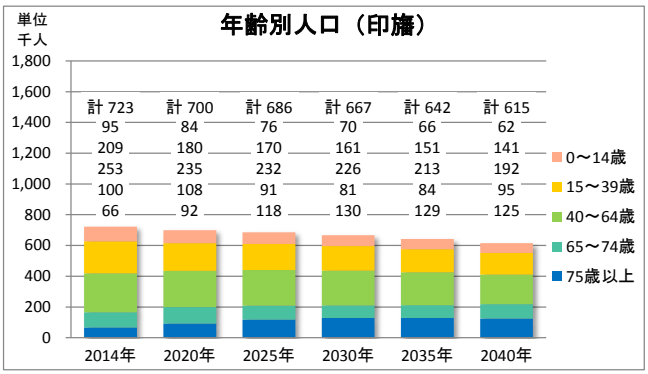
印旛保健医療圏

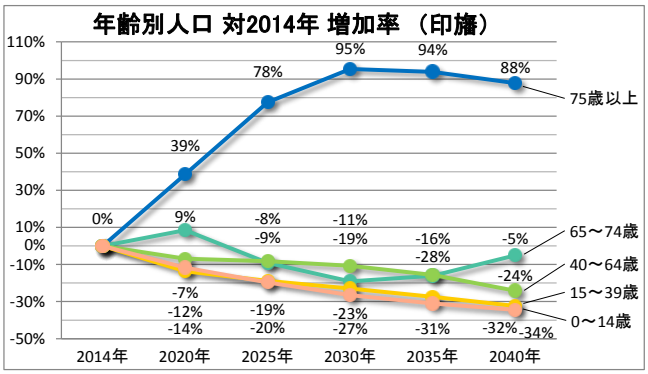
2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。64 歳以下が減少する一方で、75 歳以上の人口は増加。この人口構成の影響を受けて、入院患者数は 2035 年、外来患者は 2025 年をピークにそれぞれ、42%増、3%増。高齢患者の増加から 2035 年時点で、入院では「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」、外来は「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が大きく増加することが見込まれる。



1. 人口の推移

◆総人口は、一貫して減少。





◆若年層（0～14 歳、15～39 歳）は、2040 年に 2014 年時点の約 3 割減。40～64 歳は 24%減。

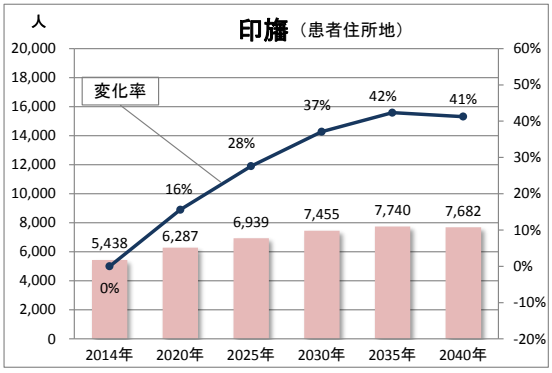
◆65～74 歳は、2030 年の 19%減から減少率は低下しはじめ、2040 年時点で対 2014 年比 5%減。

◆75 歳以上は 2030 年に対 2014 年 95%増でピークを迎える。

2. 入院患者数

◆1日あたり入院患者数は、2035 年をピークとして 7,740 人と推計。2014 年の同患者数の 42%増。

◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率（患者住所地 印旛）

呼吸器系の疾患	82%	感染症及び寄生虫症	36%
循環器系の疾患	67%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	31%
皮膚及び皮下組織の疾患	66%	神経系の疾患	28%
腎尿路生殖器系の疾患	60%	新生物	22%
損傷，中毒及びその他の外因の影響	57%	精神及び行動の障害	15%
消化器系の疾患	56%	耳及び乳様突起の疾患	9%
内分泌，栄養及び代謝疾患	53%	先天奇形，変形及び染色体異常	−25%
眼及び付属器の疾患	46%	周産期に発生した病態	−30%
筋骨格系及び結合組織の疾患	37%	妊娠，分娩及び産じょく	−31%

印旛保健医療圏の医療機関の入院患者住所地	
患者住所	構成比
千葉	5.4%
東葛南部	7.7%
東葛北部	2.7%
印旛	63.1%
香取海匝	6.7%
山武長生夷隅	3.9%
安房	−
君津	0.3%
市原	0.5%
県外	9.6%
合計	100.0%
医療圏外計	36.9%

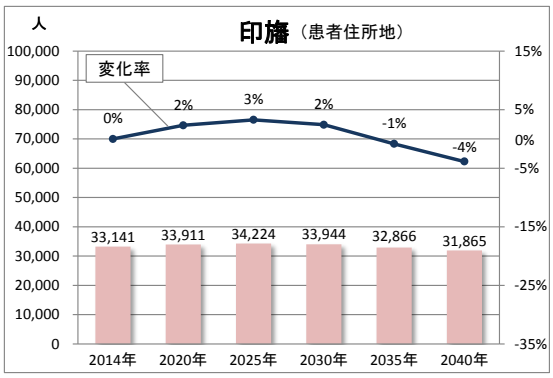
印旛保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地	
医療機関所在地	構成比
千葉	9.2%
東葛南部	14.0%
東葛北部	3.2%
印旛	64.3%
香取海匝	1.3%
山武長生夷隅	2.5%
安房	0.2%
君津	−
市原	0.2%
県外	5.1%
合計	100.0%
医療圏外計	35.7%

◆出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩及び産じょく」、「周産期に発生した病態」、「先天奇形、変形、染色体異常」の患者数は減少。

◆印旛保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 36.9%。

◆印旛保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 35.7%。

3. 外来患者数（往診・訪問診療含む）



◆１日あたり外来患者数（往診・訪問診療含む）は、2025 年をピークとして 34,224 人と推計。2014 年の同患者数の 3%増。

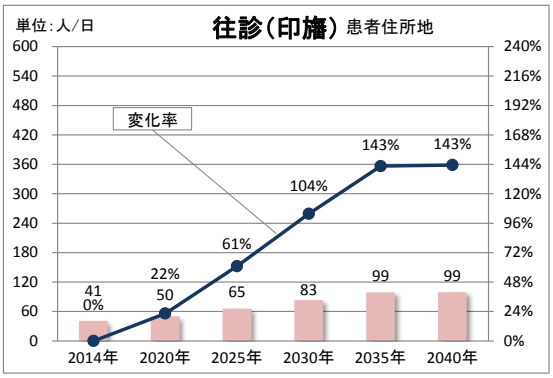
◆一般的に、高齢外来患者に多い、「循環器系の疾患」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が増加。

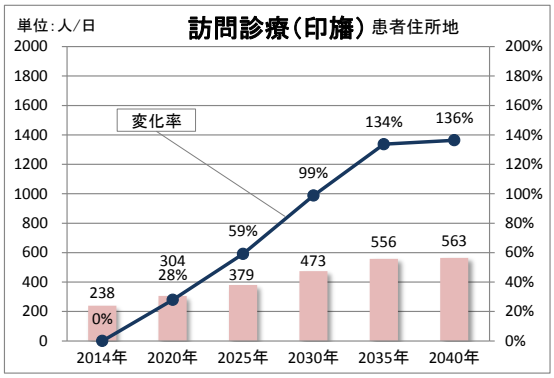
◆出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩及び産じょく」の患者数の減少幅が大きい。

◆高齢者人口の増加により、2040 年における往診を必要とする患者数は対 2014 年比 143%増、訪問診療を必要とする患者数は 136%増になることが見込まれる。

2035年疾患別 対2014年外来患者増加率（患者住所地 印旛）

循環器系の疾患	18%	神経系の疾患	−4%
筋骨格系及び結合組織の疾患	10%	皮膚及び皮下組織の疾患	−8%
眼及び付属器の疾患	4%	感染症及び寄生虫症	−10%
消化器系の疾患	3%	精神及び行動の障害	−11%
内分泌，栄養及び代謝疾患	1%	耳及び乳様突起の疾患	−11%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	1%	呼吸器系の疾患	−18%
腎尿路生殖器系の疾患	−2%	先天奇形，変形及び染色体異常	−20%
損傷，中毒及びその他の外因の影響	−2%	妊娠，分娩及び産じょく	−28%
新生物	−3%	周産期に発生した病態	−



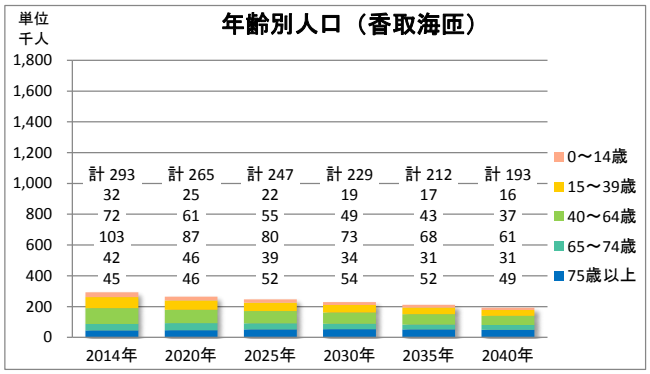


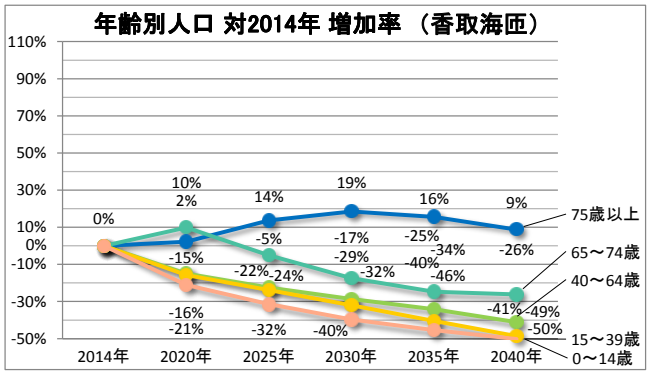
※ 各表中のパーセンテージの欄が「−」となっているところは、患者数が 10 人未満。

香取海匝保健医療圏

2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。若年人口は一貫して減少し、75 歳以上の人口は 2030 年に 19%増まで増加するが、その後減少に転じる。
この人口構成の影響を受けて、2040 年には対 2014 年比で入院患者数が 11%減、外来患者が 31%減。入院患者は高齢患者の増加から 2035 年時点で、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が増加、外来はすべての傷病分類において減少が見込まれる。

1. 人口の推移

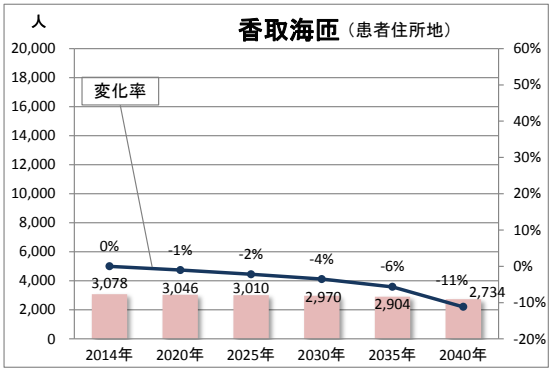




◆総人口は、一貫して減少。
◆若年層（0～14 歳、15～39 歳）は、2040 年に 2014 年時点の約 5 割減。40～64 歳は 4 割減。
◆65～74 歳は、2020 年の 10%増から下降をはじめ、2040 年時点で対 2014 年比 26%減。
◆75 歳以上は 2030 年に対 2014 年 19%増でピークを迎え、2040 年の 9%増まで下降。

2. 入院患者数

◆1日あたり入院患者数は、一貫して減少。2040 年には 2,734 人で、2014 年の同患者数の 11%減と推計。
◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率（患者住所地 香取海匝）

呼吸器系の疾患	12%	感染症及び寄生虫症	−9%
循環器系の疾患	7%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	−9%
耳及び乳様突起の疾患	−	新生物	−9%
損傷，中毒及びその他の外因の影響	1%	皮膚及び皮下組織の疾患	−12%
消化器系の疾患	0%	眼及び付属器の疾患	−16%
腎尿路生殖器系の疾患	−5%	精神及び行動の障害	−18%
内分泌，栄養及び代謝疾患	−5%	周産期に発生した病態	−38%
筋骨格系及び結合組織の疾患	−6%	妊娠，分娩及び産じょく	−38%
神経系の疾患	−6%	先天奇形，変形及び染色体異常	−

香取海匝保健医療圏の医療機関の入院患者住所地

患者住所	構成比
千葉	0.7%
東葛南部	1.0%
東葛北部	0.5%
印旛	2.4%
香取海匝	76.3%
山武長生夷隅	7.1%
安房	−
君津	−
市原	−
県外	11.7%
合計	100.0%
医療圏外計	23.7%

香取海匝保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地

医療機関所在地	構成比
千葉	3.0%
東葛南部	1.0%
東葛北部	0.5%
印旛	12.1%
香取海匝	70.9%
山武長生夷隅	1.9%
安房	−
君津	−
市原	−
県外	10.3%
合計	100.0%
医療圏外計	29.1%

◆出産年齢人口が減少することから、「妊娠、分娩及び産じょく」、「周産期に発生した病態」の患者数は大きく減少。

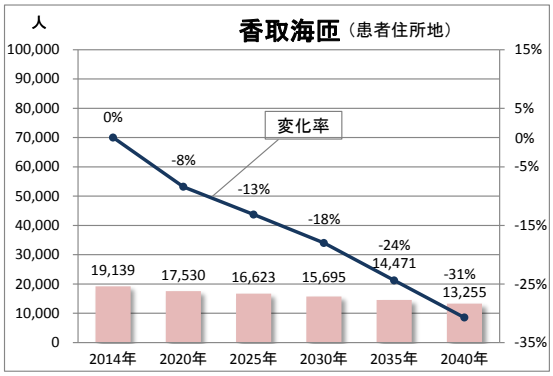
◆香取海匝保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 23.7%。

◆香取海匝保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 29.1%。

3. 外来患者数（往診・訪問診療含む）

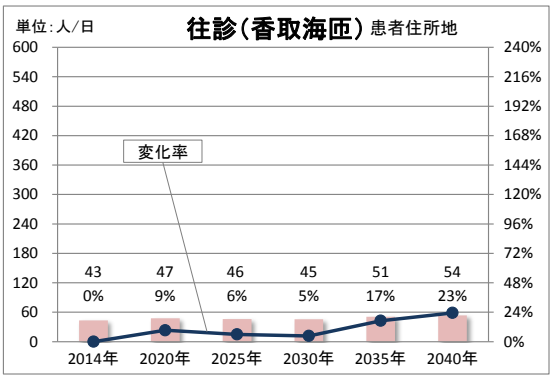
◆1日あたり外来患者数（往診・訪問診療含む）は、一貫して減少。2040 年には 13,255 人で、2014 年の同患者数の 31%減と推計。

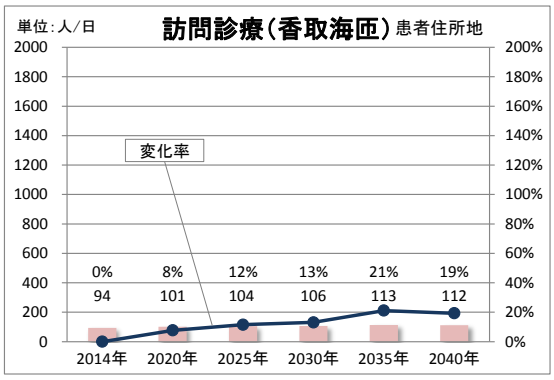
◆総人口の減少に加え、75 歳以上の人口増加率が他の二次医療圏と比べて小さいため、全ての傷病分類で減少。



2035年疾患別 対2014年外来患者増加率（患者住所地 香取海匝）

循環器系の疾患	−17%	損傷，中毒及びその他の外因の影響	−27%
筋骨格系及び結合組織の疾患	−18%	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	−29%
神経系の疾患	−20%	感染症及び寄生虫症	−29%
眼及び付属器の疾患	−21%	皮膚及び皮下組織の疾患	−30%
消化器系の疾患	−22%	耳及び乳様突起の疾患	−32%
新生物	−22%	精神及び行動の障害	−32%
腎尿路生殖器系の疾患	−23%	周産期に発生した病態	−34%
内分泌，栄養及び代謝疾患	−24%	呼吸器系の疾患	−36%
先天奇形，変形及び染色体異常	−27%	妊娠，分娩及び産じょく	−37%



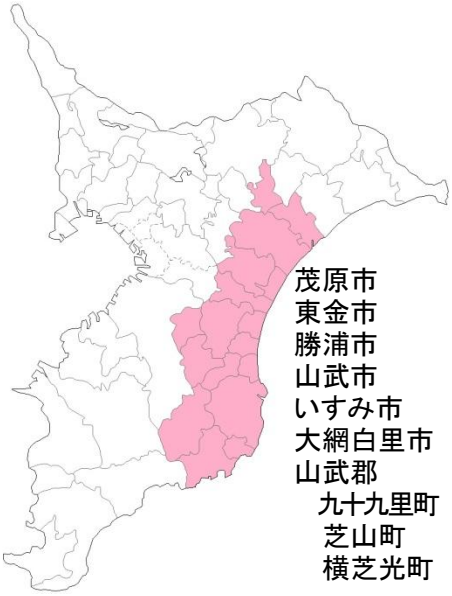


※ 各表中のパーセンテージの欄が「−」となっているところは、患者数が 10 人未満。

山武長生夷隅保健医療圏

2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。若年人口は一貫して減少し、75 歳以上の人口は 2030 年 43%増をピークとして、その後減少に転じる。

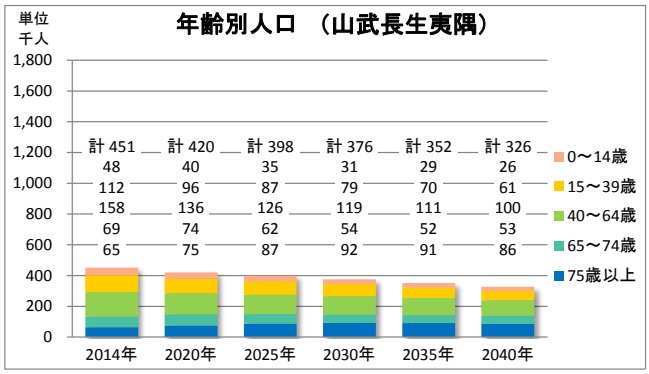
入院患者は 2035 年にピークとなり、12%増。高齢者人口の影響を受けて、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加する。外来患者は、一貫して減少し、2040 年には 22%減。

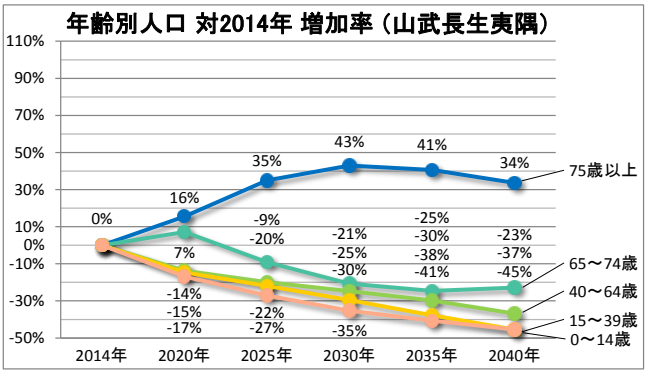


茂原市
東金市
勝浦市
山武市
いすみ市
大網白里市
山武郡
九十九里町
芝山町
横芝光町

長生郡
一宮町
睦沢町
長生村
白子町
長柄町
長南町
夷隅郡
大多喜町
御宿町

1. 人口の推移





◆総人口は、一貫して減少。

◆0～14 歳、15～39 歳、40～64 歳は、2040 年に 2014 年時点の約 4 割減。

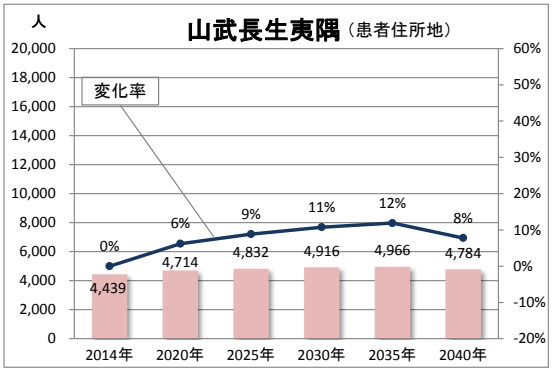
◆65～74 歳は、2020 年の 7%増から下降をはじめ、2040 年時点で対 2014 年比 23%減。

◆75 歳以上は 2030 年に対 2014 年 43%増でピークを迎え、2040 年の 34%増まで下降。

2. 入院患者数

◆1日あたり入院患者数は、2035 年をピークとして 4,966 人と推計。対 2014 年の同患者数の 12%増。

◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率（患者住所地 山武長生夷隅）

呼吸器系の疾患	42%	消化器系の疾患	7%
循環器系の疾患	34%	筋骨格系及び結合組織の疾患	3%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	28%	新生物	−3%
損傷，中毒及びその他の外因の影響	24%	眼及び付属器の疾患	−4%
腎尿路生殖器系の疾患	20%	精神及び行動の障害	−14%
感染症及び寄生虫症	18%	耳及び乳様突起の疾患	−
内分泌，栄養及び代謝疾患	16%	妊娠，分娩及び産じょく	−35%
神経系の疾患	14%	周産期に発生した病態	−37%
皮膚及び皮下組織の疾患	13%	先天奇形，変形及び染色体異常	−

山武長生夷隅保健医療圏の医療機関の入院患者住所地	
患者住所	構成比
千葉	3.0%
東葛南部	0.9%
東葛北部	0.3%
印旛	4.0%
香取海匝	1.8%
山武長生夷隅	83.1%
安房	0.4%
君津	0.5%
市原	2.5%
県外	3.4%
合計	100.0%
医療圏外計	16.9%

山武長生夷隅保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地	
医療機関所在地	構成比
千葉	11.5%
東葛南部	1.1%
東葛北部	0.2%
印旛	4.8%
香取海匝	4.6%
山武長生夷隅	63.3%
安房	6.5%
君津	0.4%
市原	4.6%
県外	2.9%
合計	100.0%
医療圏外計	36.7%

◆出産年齢人口が減少することから、「周産期に発生した病態」、「妊娠、分娩及び産じょく」の患者数は大きく減少。

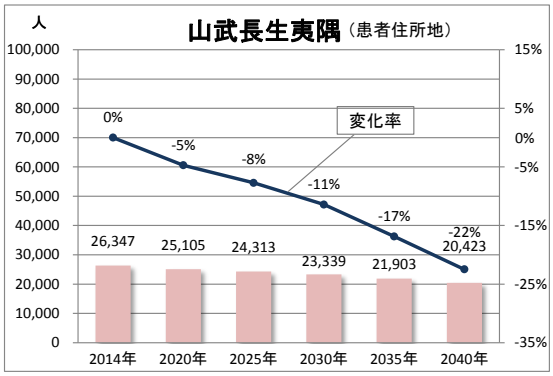
◆山武長生夷隅保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 16.9%。

◆山武長生夷隅保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 36.7%。

3. 外来患者数（往診・訪問診療含む）

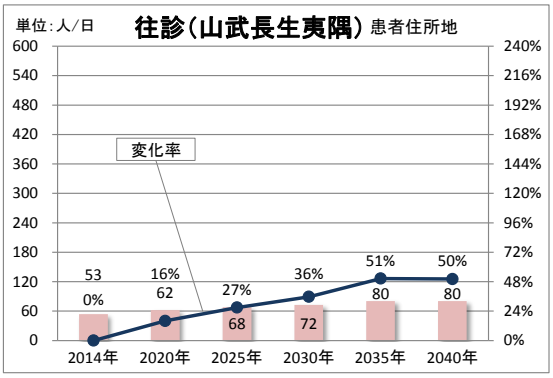
◆1日あたり外来患者数（往診・訪問診療含む）は、一貫して減少。2040 年には 20,423 人で、2014 年の同患者数の 22%減と推計。

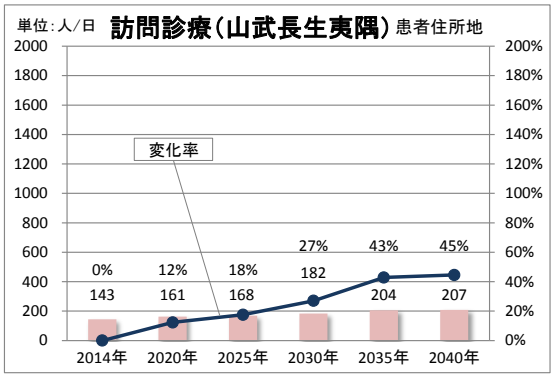
◆すべての傷病分類に減少が見られる。



2035年疾患別 対2014年外来患者増加率（患者住所地 山武長生夷隅）

循環器系の疾患	−6%	損傷，中毒及びその他の外因の影響	−20%
筋骨格系及び結合組織の疾患	−10%	皮膚及び皮下組織の疾患	−22%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	−11%	先天奇形，変形及び染色体異常	−22%
眼及び付属器の疾患	−11%	耳及び乳様突起の疾患	−23%
消化器系の疾患	−11%	感染症及び寄生虫症	−24%
新生物	−16%	精神及び行動の障害	−27%
神経系の疾患	−16%	呼吸器系の疾患	−29%
腎尿路生殖器系の疾患	−17%	周産期に発生した病態	−
内分泌，栄養及び代謝疾患	−18%	妊娠，分娩及び産じょく	−42%

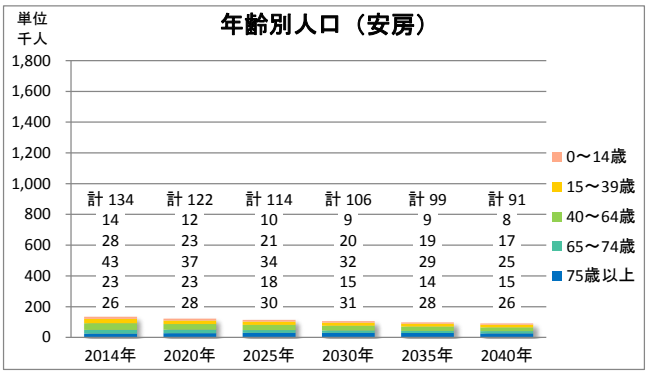


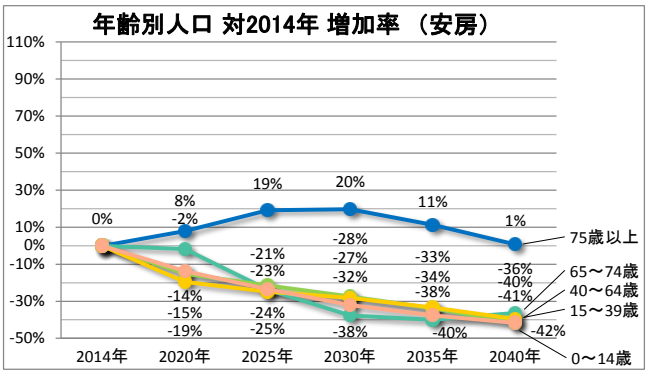


※ 各表中のパーセンテージの欄が「−」となっているところは、患者数が 10 人未満。

安房保健医療圏

2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。若年人口は一貫して減少し、75 歳以上の人口は 2030 年 20%増まで増加するが、その後減少に転じる。
この人口構成の影響を受けて、2040 年には対 2014 年比で入院患者数が 11%減、外来患者が 30%減。入院患者は高齢患者の増加から 2035 年時点で、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が特に増加、外来はすべての傷病分類において減少が見込まれる。





1. 人口の推移

◆総人口は、一貫して減少。

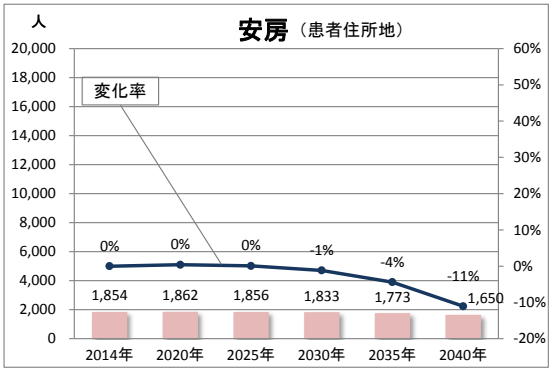
◆0～14 歳、15～39 歳、40～64 歳、65～74 歳は、2040 年に 2014 年時点の約 4 割減。

◆75 歳以上は 2030 年に対 2014 年 20%増でピークを迎え、2040 年の 1%増まで下降。

2. 入院患者数

◆1日あたり入院患者数は、2020 年の 1,862 人をピークとして減少。減少幅は次第に大きくなる。2040 年には 1,650 人で、2014 年の同患者数の 11%減と推計。

◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率（患者住所地 安房）

耳及び乳様突起の疾患	－	消化器系の疾患	−5%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	－	皮膚及び皮下組織の疾患	−8%
呼吸器系の疾患	22%	新生物	−14%
循環器系の疾患	9%	神経系の疾患	−15%
感染症及び寄生虫症	6%	精神及び行動の障害	−17%
損傷，中毒及びその他の外因の影響	3%	眼及び付属器の疾患	−26%
筋骨格系及び結合組織の疾患	−1%	先天奇形，変形及び染色体異常	－
腎尿路生殖器系の疾患	−2%	妊娠，分娩及び産じょく	－
内分泌，栄養及び代謝疾患	−3%	周産期に発生した病態	－

安房保健医療圏の医療機関の入院患者住所地

患者住所	構成比
千葉	0.9%
東葛南部	0.9%
東葛北部	0.4%
印旛	0.4%
香取海匝	－
山武長生夷隅	11.7%
安房	69.4%
君津	8.3%
市原	0.7%
県外	6.9%
合計	100.0%
医療圏外計	30.6%

安房保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地

医療機関所在地	構成比
千葉	1.0%
東葛南部	－
東葛北部	－
印旛	－
香取海匝	－
山武長生夷隅	0.8%
安房	92.0%
君津	1.3%
市原	0.6%
県外	3.4%
合計	100.0%
医療圏外計	8.0%

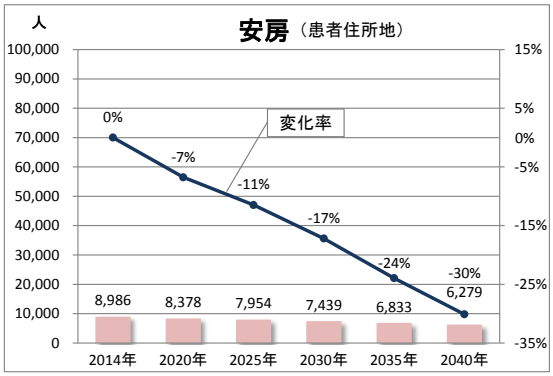
◆安房保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 30.6%。

◆安房保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 8.0%。

3. 外来患者数（往診・訪問診療含む）

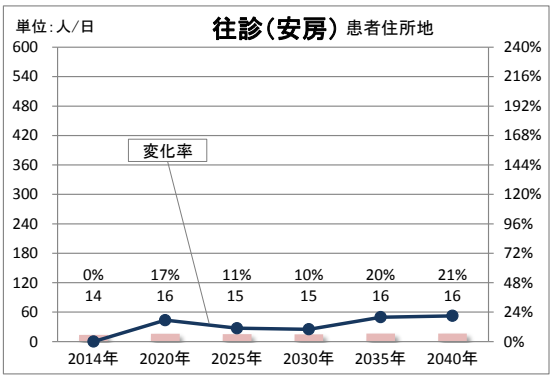
◆1日あたり外来患者数（往診・訪問診療含む）は、一貫して減少。2040 年には 6,279 人で、2014 年の同患者数の 30%減と推計。

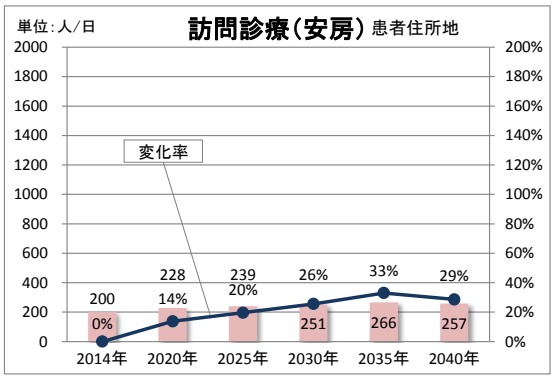
◆すべての傷病分類に減少が見られる。



2035年疾患別 対2014年外来患者増加率（患者住所地 安房）

先天奇形，変形及び染色体異常	−12%	内分泌，栄養及び代謝疾患	−26%
循環器系の疾患	−17%	新生物	−26%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	−19%	腎尿路生殖器系の疾患	−28%
皮膚及び皮下組織の疾患	−19%	呼吸器系の疾患	−28%
眼及び付属器の疾患	−21%	感染症及び寄生虫症	−29%
筋骨格系及び結合組織の疾患	−23%	耳及び乳様突起の疾患	−33%
神経系の疾患	−23%	精神及び行動の障害	−33%
消化器系の疾患	−25%	妊娠，分娩及び産じょく	－
損傷，中毒及びその他の外因の影響	−26%	周産期に発生した病態	－





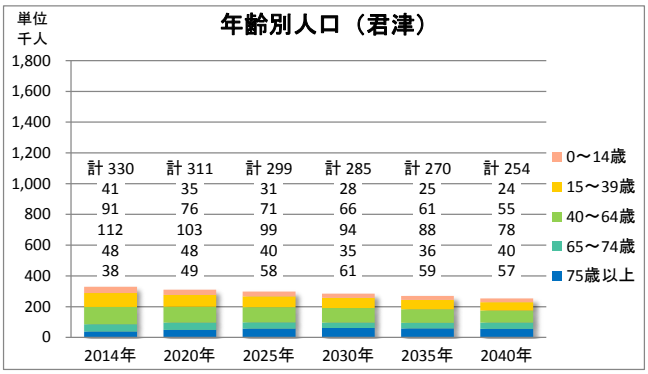
※ 各表中のパーセンテージの欄が「－」となっているところは、患者数が 10 人未満。

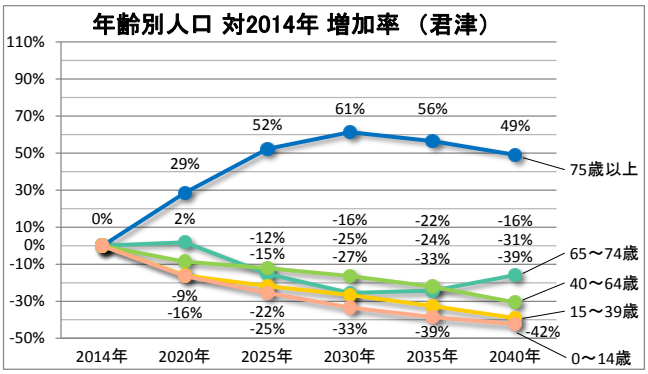
君津保健医療圏

2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。若年人口は一貫して減少し、75 歳以上の人口は 2030 年 61%増をピークとして、その後減少に転じる。
入院患者は 2035 年に 25%増とピークとなり、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」、「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加する。外来患者は、総人口同様一貫して減少し、2040 年には 16%減。

木更津市
君津市
富津市
袖ケ浦市

1. 人口の推移

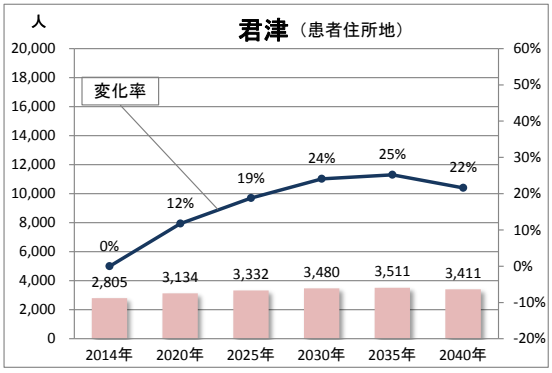




◆総人口は、一貫して減少。
◆0～14 歳、15～39 歳は、2040 年に 2014 年時点の約 4 割減。40～64 歳は、31%減。
◆65～74 歳は、2020 年の 2%増から下降をはじめ、2040 年時点で対 2014 年比 16%減。
◆75 歳以上は 2030 年に対 2014 年 61%増でピークを迎え、2040 年の 49%増まで下降。

2. 入院患者数

◆1日あたり入院患者数は、2035 年をピークとして 3,511 人、対 2014 年の同患者数の 25%増と推計。
◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」「内分泌、栄養及び代謝疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率（患者住所地 君津）

血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	67%	損傷，中毒及びその他の外因の影響	24%
呼吸器系の疾患	65%	感染症及び寄生虫症	13%
循環器系の疾患	52%	眼及び付属器の疾患	11%
内分泌，栄養及び代謝疾患	50%	新生物	4%
皮膚及び皮下組織の疾患	33%	精神及び行動の障害	1%
消化器系の疾患	28%	耳及び乳様突起の疾患	−
腎尿路生殖器系の疾患	28%	妊娠，分娩及び産じょく	−33%
神経系の疾患	28%	周産期に発生した病態	−35%
筋骨格系及び結合組織の疾患	27%	先天奇形，変形及び染色体異常	−36%

君津保健医療圏の医療機関の入院患者住所地

患者住所	構成比
千葉	1.6%
東葛南部	1.1%
東葛北部	0.6%
印旛	−
香取海匝	−
山武長生夷隅	0.6%
安房	0.9%
君津	85.2%
市原	4.5%
県外	5.3%
合計	100.0%
医療圏外計	14.8%

君津保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地

医療機関所在地	構成比
千葉	4.5%
東葛南部	0.8%
東葛北部	−
印旛	0.6%
香取海匝	−
山武長生夷隅	0.6%
安房	7.3%
君津	77.4%
市原	4.9%
県外	3.7%
合計	100.0%
医療圏外計	22.6%

◆出産年齢人口が減少することから、「先天奇形、変形、染色体異常」、「周産期に発生した病態」、「妊娠、分娩及び産じょく」の患者数は減少。

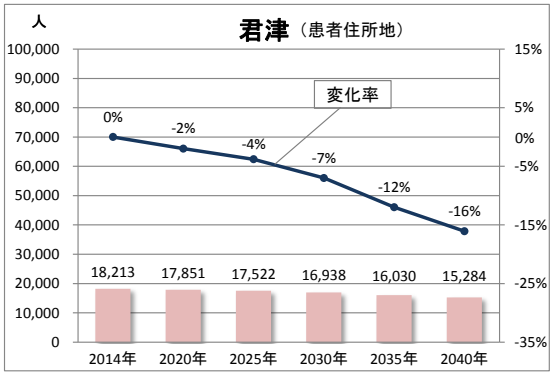
◆君津保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 14.8%。

◆君津保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 22.6%。

3. 外来患者数（往診・訪問診療含む）

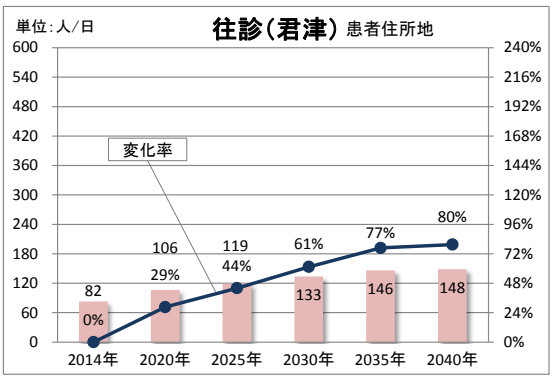
◆1日あたり外来患者数（往診・訪問診療含む）は、一貫して減少。2040 年には 15,284 人で、2014 年の同患者数の 16%減と推計。

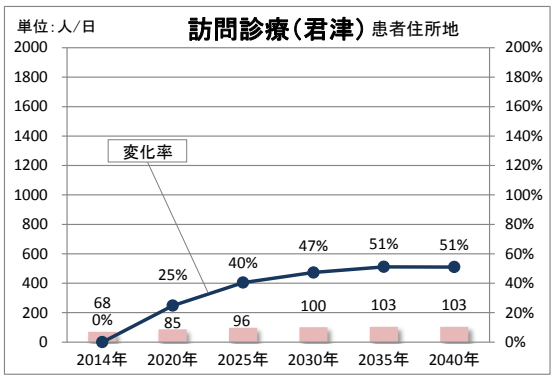
◆一般的に、高齢外来者に多い「循環器系の疾患」が微増。



2035年疾患別 対2014年外来患者増加率（患者住所地 君津）

循環器系の疾患	5%	先天奇形，変形及び染色体異常	−14%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	3%	感染症及び寄生虫症	−18%
眼及び付属器の疾患	−7%	耳及び乳様突起の疾患	−18%
筋骨格系及び結合組織の疾患	−7%	損傷，中毒及びその他の外因の影響	−18%
消化器系の疾患	−8%	皮膚及び皮下組織の疾患	−19%
神経系の疾患	−9%	精神及び行動の障害	−23%
新生物	−11%	呼吸器系の疾患	−26%
内分泌，栄養及び代謝疾患	−12%	周産期に発生した病態	−
腎尿路生殖器系の疾患	−13%	妊娠，分娩及び産じょく	−34%

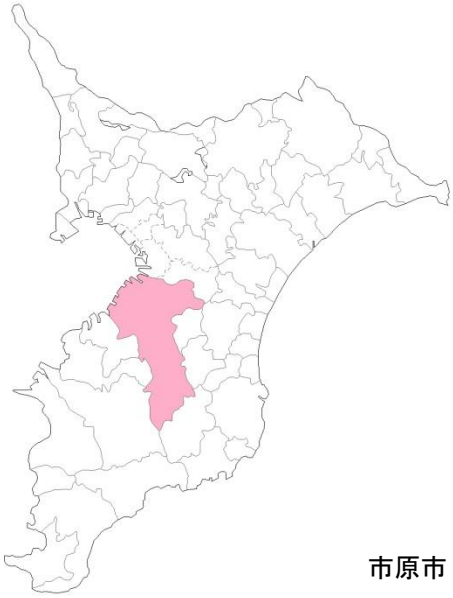




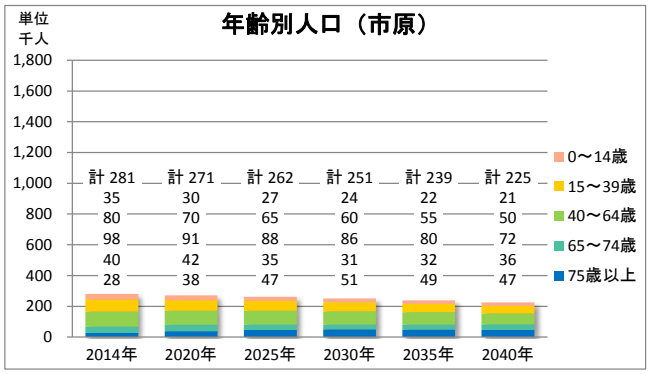
※ 各表中のパーセンテージの欄が「−」となっているところは、患者数が 10 人未満。

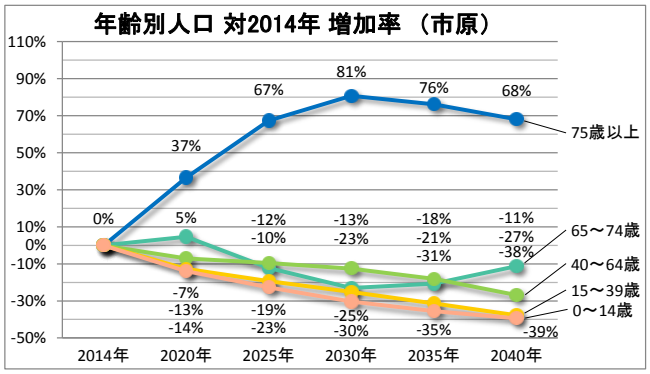
市原保健医療圏

2014 年以降、総人口は一貫して減少することが見込まれる。若年人口は一貫して減少し、75 歳以上の人口は 2030 年 81%増をピークとして、その後減少に転じる。
入院患者は 2035 年 29%増でピークとなり、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加する。外来患者は、一貫して減少し、2040 年には 13%減となるが、高齢者の増加から 2035 年時点で、「循環器系の疾患」は増加が見込まれる。



1. 人口の推移

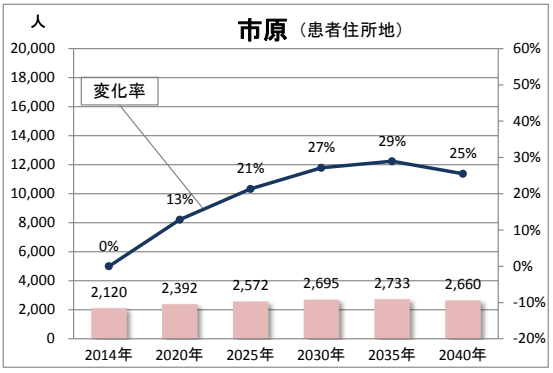




◆総人口は、一貫して減少。
◆0～14 歳、15～39 歳は、2040 年に 2014 年時点の約 4 割減。40～64 歳は、27%減。
◆75 歳以上は 2030 年に対 2014 年 81%増でピークを迎え、2040 年の 68%増まで下降。

2. 入院患者数

◆1日あたり入院患者数は、2035 年をピークとして 2,733 人、対 2014 年の同患者数の 29%増と推計。
◆一般に、高齢の入院患者に多い、「呼吸器系の疾患」、「循環器系の疾患」が大きく増加。



2035年疾患別 対2014年入院患者増加率（患者住所地 市原）

呼吸器系の疾患	74%	内分泌，栄養及び代謝疾患	23%
循環器系の疾患	55%	皮膚及び皮下組織の疾患	20%
消化器系の疾患	50%	神経系の疾患	16%
損傷，中毒及びその他の外因の影響	48%	新生物	12%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	36%	眼及び付属器の疾患	9%
腎尿路生殖器系の疾患	35%	精神及び行動の障害	−1%
筋骨格系及び結合組織の疾患	29%	妊娠，分娩及び産じょく	−29%
耳及び乳様突起の疾患	−	周産期に発生した病態	−32%
感染症及び寄生虫症	25%	先天奇形，変形及び染色体異常	−

市原保健医療圏の医療機関の入院患者住所地

患者住所	構成比
千葉	6.5%
東葛南部	0.7%
東葛北部	−
印旛	0.5%
香取海匝	−
山武長生夷隅	10.4%
安房	0.6%
君津	7.0%
市原	71.6%
県外	2.1%
合計	100.0%
医療圏外計	28.4%

市原保健医療圏の住民が入院する医療機関所在地

医療機関所在地	構成比
千葉	16.7%
東葛南部	1.1%
東葛北部	−
印旛	1.3%
香取海匝	−
山武長生夷隅	4.1%
安房	0.8%
君津	5.4%
市原	66.1%
県外	4.3%
合計	100.0%
医療圏外計	33.9%

◆出産年齢人口が減少することから、「周産期に発生した病態」、「妊娠、分娩及び産じょく」の患者数は大きく減少。

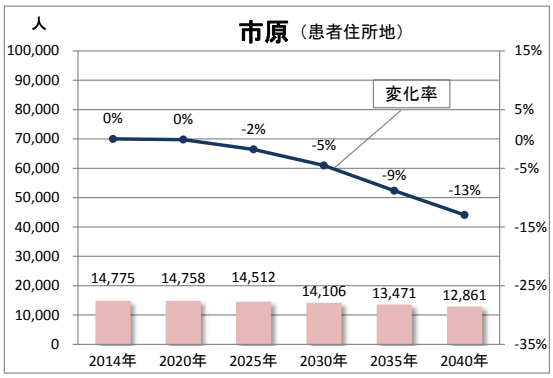
◆市原保健医療圏の医療機関の入院患者のうち、同医療圏以外の住民は 28.4%。

◆市原保健医療圏の住民が入院する医療機関の所在地は、同医療圏以外が 33.9%。

3. 外来患者数（往診・訪問診療含む）

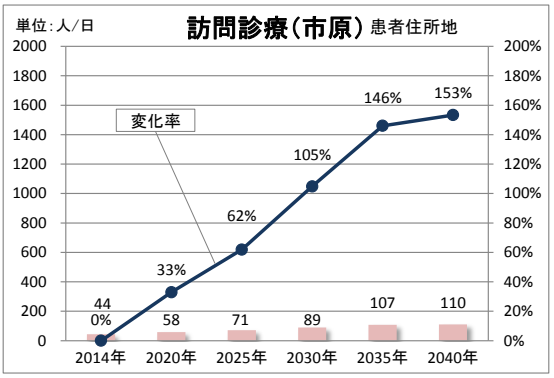
◆1日あたり外来患者数（往診・訪問診療含む）は、一貫して減少。2040 年には 12,861 人で、2014 年の同患者数の 13%減と推計。

◆一般的に、高齢外来者に多い、「循環器系の疾患」が増加。



2035年疾患別 対2014年外来患者増加率（患者住所地 市原）

循環器系の疾患	9%	皮膚及び皮下組織の疾患	−14%
筋骨格系及び結合組織の疾患	−2%	損傷，中毒及びその他の外因の影響	−14%
消化器系の疾患	−2%	耳及び乳様突起の疾患	−15%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	−2%	先天奇形，変形及び染色体異常	−
神経系の疾患	−4%	精神及び行動の障害	−18%
眼及び付属器の疾患	−4%	感染症及び寄生虫症	−19%
新生物	−5%	呼吸器系の疾患	−25%
内分泌，栄養及び代謝疾患	−6%	妊娠，分娩及び産じょく	−29%
腎尿路生殖器系の疾患	−9%	周産期に発生した病態	−



※ 往診患者数の推移については、患者数が 10 人未満の年があるため表示しない。

※ 各表中のパーセンテージの欄が「−」となっているところは、患者数が 10 人未満。